

教育センター

センター長 福島 統

センター長・室長・教授：	福島 統	医学教育学（教育開発室）
専任・室長・教授：	木村 直史 (薬理学第2)	医学教育学（医学教育研究室）
専任・副室長・教授：	伊坪真理子 (内科学（消化器・肝臓）)	医学教育学（医学教育研究室）
兼任・准教授：	川村 哲也 (内科学（腎臓・高血圧）)	医学教育学（医学教育研究室）
兼任・准教授：	尾上 尚志 (脳神経外科学)	医学教育学（医学教育研究室）
兼任・講師：	古谷 伸之 (内科学（総合診療部）)	医学教育学（医学教育研究室）
兼任・講師：	石橋 由朗 (外科学)	医学教育学（医学教育研究室）
兼任・講師：	鷹橋 浩幸 (病理学)	医学教育学（医学教育研究室）
兼任・副室長・准教授：	柏木 秀幸 (外科学)	医学教育学（教育開発室）
兼任・准教授：	松島 雅人 (内科学（総合診療部）)	医学教育学（教育開発室）
兼任・講師：	柵山 年和 (臨床腫瘍部)	医学教育学（教育開発室）
兼任・准教授：	大石 杉乃 (看護学科)	看護教育学（教育開発室）
兼任・室長・准教授：	宇都宮一典 (内科学（糖尿病・代謝・内分泌）)	医学教育学（卒後教育支援室）
兼任・副室長・准教授：	佐々木英樹 (内科学（循環器）)	医学教育学（卒後教育支援室）
兼任・室長・准教授：	平尾真智子 (看護学科)	看護教育学（看護教育研究室）

教育・研究概要

平成11年4月に教学委員長を室長に医学教育研

究室が学事部学務課内に設置され、複雑化する卒前医学教育を教職員連携のもとで進める体制が整えられた。平成14年4月には初年次教育の拡充を図るために、国領校に医学教育研究室国領分室が設置され、その活動の場が国領校にも広がった。医療者教育には、専門的支援が不可欠との判断で、平成17年10月に教育センターが設置され、その中に医学教育研究室（木村直史室長、伊坪真理子副室長）、看護教育研究室（平尾真智子室長、山下紳子副室長）、卒後教育支援室（宇都宮一典室長、佐々木英樹副室長）、教育開発室（福島 統室長、柏木秀幸副室長）が置かれた。平成18年4月には教育センター事務局が設置され、教育センターとして、医学・看護学卒前教育、卒後臨床研修、そして地域医療者生涯学習をテーマに本格的な活動が開始された。平成19年4月に福島統が教育センター長に就任した。

1. 平成19年度特色ある大学教育支援プログラムに「地域の教育力を活かす医療者教育—地域の教育力を大学に、大学の智を地域に」が採択された。取組の概要は、「東京慈恵会医科大学は、医療者教育を大学（教育研究機関）と大学附属病院（特定機能病院）のみで行うことはできないと考える。医療者教育には、学生が多様な患者さんと出会い、患者さんから学ぶ環境を整備する必要がある。本学はそのため、医療者教育に「地域」を活用することを実践してきた（Community-based Medical Education）。本学は、昭和61年度にわが国で最初に地域開業医へ学生を派遣する家庭医実習を導入し、その後も地域の教育力を活用する取組を続けている（地域中核病院、訪問看護ステーションなど）。しかし、地域の教育力を活かすにはそれを利用するだけでなく、地域医療者へ大学が教育FDや生涯学習環境をも提供することも重要であると考え。大学の教育資源を積極的に地域医療者に還元することで地域医療実習での学生教育の質の向上が図られる。本取組は本学の地域・大学連携についての提案である。」これに対し、文部科学省からの採択理由は、「医療者の教育は大学だけで行えるものでなく、地域といたってとなった連携教育が必要であるとの慈恵会医科大学の

ミッションのもと、約20年前から学生を地域の開業医に派遣して、実践医学教育を学ばせてきた実績があります。今回は大学の教育資源を解放して、地域医療者の能力の向上と生涯教育をめざし、初期の目的をさらに推進しようとするものです。現在の学生の思考トレンド、医学教育のあり方、わが国の医療制度のあり方などを考え合わせると、優れた取組と認められ、他大学の参考になる事例であるといえます。地域の実習指導者の教育能力開発プログラムをより有効とするための工夫や、キングス大との実質的な交流による日本版家庭医制度のあり方を追求されると、さらに充実した取組となることが期待されます。」であった。平成19年度は学生教育だけでなく、青戸病院での地域連携オープン講座（10月5日）や第1回地域医療者FD（聴診セミナー：11月18日）、家庭医実習指導医・在宅ケア実習指導者FD（10月28日）を開催した。1月28日～2月2日に英国キングス大学医学部とセント・ジョージ医科大学を視察し、両校のGP教育の視察を行った。

2. 平成19年度地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラムに「プライマリケア現場の臨床研究者の育成」が採択された。取組概要は、「医療全体におけるプライマリケア・地域医療の重要性がますます増大している。プライマリケアの医療現場では、大学病院とは質の異なった臨床上の問題が生ずる。例えば、common diseasesの診療、在宅医療、地域医療サービス、一次予防、行動科学などである。実際に生じているこれらの問題を臨床研究のテーマとして挙げていくことは、大学病院では困難である。一方、大学病院には臨床研究やその基礎理論となる疫学の知識や技術の蓄積がある。そこで、プライマリケアで直面している問題を解決していくためには、地域のプライマリケアを担う医療者、医療機関と大学病院がネットワークを組み、お互いを補完することによって、直面している問題を妥当で効率的に解決していくシステムの構築が必要である。本取組では大学病院に、プライマリケアを担う医療者を対象に臨床研究の知識や技術を養うコースを構築し、プライマリケア現場での臨床研究の促進を図る。」である。これに対し、文部科学書からの採択理由は、「わが国の医療においてプライマリケアは重要なテーマである。プライマリケアにおける、大学病院とは質の異なったエビデンス形成の重要性を前面に出し、地域における研究者の養成を目的とする本取組は独創的であり、また、過去の実績、経験にもとづいて実施するため、実現が期待

できる。プライマリケア医の養成のために創意工夫していることを評価し、期待したい。なお、今後の実施上の課題は、プライマリケアを担当する医療者が臨床研究のデザインから実施、解析、論文化までを習得するためには、講義内容やメンタリングに加えたさらなる工夫が必要であり、地域医療の立場からも医師会との協力関係について検討する必要がある。また、評価方法として、自己点検評価、受講者アンケート以外にも客観性を担保するための評価体制作りについて考慮する必要がある。」であった。本取組ではプログラム委員会を設置し、平成20年度からのプログラム受講生への教育コースの設計を行った。1月にプロジェクトリーダーの松島准教授は英国キングス大学での臨床研究マスターコースの見学を行った。

3. 平成18年度現代GP「卒前教育教材から生涯継続学習教材へ」では、技術職員の小松主査が英国キングス大学の電子教材責任者のDr. Byrneを訪問し、キングス大学でのe-Learning、電子シラバスの見学と討論を行った。本学の電子教材は、卒前教育にとどまらず、地域医療者のための生涯学習や大学附属病院の看護師のための教材にも発展し、一部の電子教材は慈恵医大e-Learningシステムに掲載されている。本学のIT教育環境については、和歌山県立医科大学、川崎医科大学、山口大学医学部などが見学に訪れた。

4. 平成17年度特色GP「多くの職種が参加する医療者教育—Inter-professional Education」では、7月7日に開催された「連携教育国際カンファレンス2007東京」を首都大学東京都共同開催した。

5. 平成19年度文部科学省「先導的大学改革推進事業」に参加し、わが国におけるメディカルスクール制度の導入検討のために、2月にオーストラリアの3医科大学、3月に英国の2医科大学の学士入学についての調査研究を行った。

6. 厚生労働科学研究「OSCE実施に関する研究」では、全国医学部附属病院および管理型研修病院の研修医に卒前教育での診療技能教育についてのアンケート調査を行い、卒前の診療技能教育の問題点を指摘した。

7. 医療の安全教育ワークショップを4月21日（附属病院）、5月19日（青戸病院）、6月16日（第

三病院), 7月21日(柏病院), 8月18日(附属病院), 9月15日(附属病院), 10月27日(青戸病院), 11月17日(第三病院), 12月15日(柏病院), 1月19日(附属病院)を開催した。

8. 臨床研修に関しては, 卒後教育支援室は研修管理委員会, 研修レジデント委員会委員として, 研修の管理・運営に参画した。CPC委員会副委員長(宇都宮)として, 新規CPCの立ち上げの参画した。第4回指導医講習会を開催した(2007年11月23, 24日)。平成21年度初期研修カリキュラム改定に関する学内ワーキンググループを主催し, 病院長宛に答申書を提出した(2008年3月)。病院医師のための鏡視下トレーニングコースもStep1とStep2を開催している。

9. 教育センターが主管している委員会は, ①教育センター運営委員会, ②教育補助金検討委員会, ③医療の安全ワークショップ委員会, ④公開講座推進委員会, ⑤eラーニング委員会, ⑥テレビ会議運営委員会, ⑦スキルス・ラボ運営委員会, ⑧CPC委員会そして⑨教員評価データベース開発委員会である。教員評価データベース委員会は平成17年度からの3年間でその開発を終えた。

10. 学外での教育関係講演 ①日総研セミナー「学生の自ら学ぶ力を引き出す学習評価」4月28日(福岡), ②鍼灸医療推進研究会。「医療者養成のブランドデザイン」6月21日(東京), ③第15回日本医科大学医学教育のためのワークショップ「SGL(PBL-チュートリアル)とは」6月23日, 24日(幕張), ④金沢医科大学医学教育に関するワークショップ「英国の卒業試験OSCE: 基本的臨床能力とは」, 「職場の中で学ぶ」, 「Workplaceでの評価」, 「地域医療臨床実習」。8月1日(金沢), ⑤埼玉医科大学医学教育ワークショップ「成人学習理論—医学生・研修医を生涯学習者に育てるために—」8月7日(川越), ⑥佐久市立国保浅間総合病院研修会「医療事故から学ぶ—異職種間コミュニケーション—」。8月22日(佐久市), ⑦山形大学医学教育ワークショップ「学習評価とは—評価が人を育てる」, 「客観試験の作り方と修正イーベル法」。8月25日, 26日(山形), ⑧関西医療大学FD講演会「客観試験問題の作り方」。9月1日(大阪), ⑨加古川市民病院看護局臨床指導者合同研修会「職場で学ぶ」。9月6日(加古川), ⑩第6回東京医科大学医学教育アドバンスワークショップ「慈恵医大における医学教育

施設とその活用」。10月20日(東京), ⑪東京医科大学西新宿SSJ委員会講演会「慈恵医大における医学教育施設とその活用」。11月21日(東京), ⑫第8回熊本大学医学部FDワークショップ「臨床推論チュートリアル」, 「臨床実習という学習の場」。1月5日(熊本), ⑬第27回医学教育セミナーとワークショップ「客観試験問題の作り方」, 「教育を通じて“大学力”をアップさせる」, 「学習評価」1月12日・13日(名古屋), ⑭平成19年度(第34回)理学療法士作業療法士養成施設等教員講習会(医療研修推進財団)「教育方法論II」1月16日, 18日, 28日, 30日(東京)

11. 医療系大学間共用試験実施評価機構モニターとして, ①徳島大学医学部CBTモニター(1月9日・10日), ②鳥取大学医学部CBTモニター(2月5日), ③新潟大学医学部CBTモニター(2月7日), ④山梨大学医学部CBTモニター(2月19日), ⑤山口大学医学部CBTモニター(2月21日), ⑥大阪大学医学部CBTモニター(2月27日・28日・29日), ⑦愛知医科大学OSCEモニター(3月8日)に参加した。

「点検・評価」

平成19年度は文部科学省の競争的教育資金を2つ獲得した。これで本学は平成15年度特色GP, 平成17年度特色GP, 平成18年度現代GP, 平成19年度特色GP, そして平成19年度医療人GPと5本のGPの採択を受けたことになる。教育センターはこれらGP事業の遂行を行っている。また, 経常費補助金特別補助に関してもその獲得に力を入れている。これら補助金は当然のことながら, 適正支出が求められる, そのために膨大な事務量がかかっている。教育センターは教職員の共同作業の場であり, 未だ, 多職種連携が十分とはいえない。今後はさらに他部署連携, 職種を超えての連携を図っていかねばならない。

研究業績

II. 総説

- 1) 福島 統. 医療者教育が目指すもの. リハビリテーション教育研究 2007; 12: 1-2.
- 2) 福島 統. 医師養成におけるOSCEの導入と効果. リハビリテーション教育研究 2007; 12: 3-4.
- 3) 奈良信雄, 伊藤雅章, 後藤英司, 斎藤宣彦, 田中雄二郎, 田辺政裕, 福島 統, 堀内三郎, 全国医学部長病院長会議医学教育委員会・FD専門委員会, 全国医学部

における大学教員研修 (FD) の現状. 医教育 2007; 38 (4): 275-8.

- 4) 野呂幾久子, 阿部恵子, 松島雅人, 福島 統, 木村直史. 医学生 of ジェンダー差とコミュニケーション・スタイルの関係 RIAS による OSCE 医療面接のパイロット研究. 医教育 2008; 39(1): 13-8.

III. 学会発表

- 1) 畝村泰樹, 古谷伸之, 鷹橋浩幸, 石橋由朗, 尾上尚志, 川村哲也, 伊坪真理子, 木村直史, 田嶋尚子, 森山寛. 5年次臨床実習に関する患者の意識. 第39回日本医学教育学会大会. 盛岡, 7月. [医教育 2007; 38(補冊): 105]
- 2) 福島 統. 専門職業職者教育には他職種の参加が必要である—Inter-professional Education on the workplace—. 日本高等教育学会第10回大会. 名古屋, 5月.
- 3) 福島 統. インタープロフェッショナル教育(IPE) について. 連携教育国際カンファレンス2007 at Tokyo. 東京, 7月.
- 4) 福島 統. 多専門職ワークショップ: 東京慈恵会医科大学の取組み. 連携教育国際カンファレンス2007 at Tokyo. 東京, 7月.
- 5) 福島 統. 東京慈恵会医科大学「在宅ケア実習」10年の経験. 第39回日本医学教育学会大会. 盛岡, 7月.
- 6) 佐々木英樹, 岡崎史子, 望月正武, 福島 統. 医学科5年生のクラークシップ臨床実習評価の指導医によるばらつき. 第39回日本医学教育学会大会. 盛岡, 7月.
- 7) 犬塚裕樹, 阿部好文, 大滝純司, 大野良三, 倉本 秋, 斎藤彦彦, 田辺政裕, 津田 司, 出口寛文, 中島宏昭, 伴信太郎, 福島 統, 藤崎和彦, 吉田一郎, 吉田素文, 畑尾正彦. Advanced OSCE トライアルにおける評価データの解析 II: 評価者の区分二影響する主因子. 第39回日本医学教育学会大会. 盛岡, 7月.
- 8) 畝村泰樹, 柏木秀幸, 石橋由朗, 尾上尚志, 清田 浩, 菅野みゆき, 美嶋路江, 小松一祐, 倉本武晴, 福島 統, 木村直史. 手術時手洗い・ガウンテクニック学習用教材の作成とその初期評価. 第39回日本医学教育学会大会. 盛岡, 7月.
- 9) 福島 統. 各大学における共用試験 CBT の成績の利用について. 医学系 CBT (社) 医療系大学間共用試験実施評価機構 試験信頼性向上専門部会第1回講演会. 東京, 9月.
- 10) 福島 統. 医学教育における改革の経緯と方向性. 第48回日本母性衛生学会総会. つくば, 10月.
- 11) 福島 統. 医療の安全教育ワークショップ—慈恵医

大の取組—. 医療安全推進セミナー. 横浜, 1月.

- 12) 福島 統. 生理学モデル講義. 教育委員会シンポジウム. 東京, 3月.

IV. 著 書

- 1) 福島 統. 英国における OSCE. 大滝純司(東京医大) 編. OSCE の理論と実際. 東京: 篠原出版新社, 2007. p. 218-22.

V. その他

- 1) 福島 統. (文献紹介) Anne E. Stephenson, Lesley E. Adshead, Gogger H. Higgs. The teaching of professional attitudes within UK medical schools: Reported difficulties and good practice. Medical Education 2006; 40: 1072-80. 医教育 2007; 38 (2): 94.
- 2) 福島 統. (文献紹介) Kirsty Forrest, Nicola Cooper, Peter Belfield. Introducing Foundation Programmes. The Clinical Teacher 2006; 3: 238-41. 医教育 2007; 38(2): 143.
- 3) 福島 統. (書評) 研修指導スキルの学び方・教え方—病棟・外来で使える—. 医教育 2007; 38(2): 114.
- 4) 福島 統. (取材) 医師に求められている資質・能力と医学教育改革の現状. 特集「医学科の現状—医師に求められる能力と変化する医学教育—」. Guideline (河合塾). 2007.
- 5) 福島 統. (文献紹介) Sue Kilminster, Julia Downes, Brendan Gough, Deborah Murdoch-Eaton, Trudie Roberts. Women in medicine— is there a problem? A literature review of the changing gender composition, structures and occupational cultures in medicine. Medical Education 2006; 41: 39-49. 医教育 2007; 38(4): 230.
- 6) 福島 統. (イラスト・コラム) 非参加のアイデンティティ. 医教育 2007; 38(5): 342-3.
- 7) 福島 統. (文献紹介) Gray L Beck, Mihaela T Matache, Carrie Riha, Katherine Kerber, Fredrick A McCurdy. Clinical experience and examination performance: is there a correlation? Medical Education 2007; 41: 550-5. 医教育 2007; 38(5): 300.
- 8) 福島 統. (書評) 患者と医師のコミュニケーション—より良い関係作りの科学的根拠. Roter DL & Hall JA 著, 石川ひろの, 武田裕子監訳. 医教育 2008; 39(1): 28.
- 9) 福島 統. (表紙のことは) 近づきやすさ Accessibility. 医教育 2007; 38(6).